

学校経営方針 2025

1. 教育理念

自律：自分で考え、より良い生き方を選択する。
共生：多様性を尊重し、お互いから学び高め合う。
創造：よりよい未来のために、試行錯誤する。

2. 学校教育目標

仲間と共によりよい社会を切り拓く資質・能力の確実な育成

3. 学校スローガン 【 子どもが主役の学校 】

4. めざす児童・学校・教師像

(1) めざす学校像

- ① 教師と児童，教師同士が目指す姿を共有し，共に育つ学校
- ② 児童も教職員も安心して笑顔で過ごせる学校
- ③ 保護者や地域に信頼される学校

(2) めざす児童像

「**じ・も・と**」で育つ あらやの子

じ 自分で考え行動する。
・自分なりの考えを持つ。
・よく考え判断する。
・よいと思ったことは進んで行く。

も もっと良くなろうとする。
・より良いものを目指す。
・粘り強く最後まであきらめずやりぬく。

と 共に学ぶ 思いやる
・自分も周りの人も大切にする。
・対話し，多様な考えから学ぶ。
・感謝の気持ちをもつ。

(3) めざす教師像

- ① 協働して学び続け，共通実践を大切にする教師
- ② 児童の安心と安全を第一に考えて行動する教師
- ③ 誠実と熱意で教育にあたり，信頼される教師
- ④ 心身ともに健康で，笑顔で教育活動を推進する教師
- ⑤ 保護者や地域と連携して児童を育てる教師

5. めざす資質・能力

	知	徳	体
生きて働く 知識・理解 学ぶツールの習得	○学び方 (めあて・ふり返り) ○ <u>見方・考え方</u> (話し方・聞き方) ・概念的な知識 ・言語活用能力	○道徳的価値 (思いやり・感謝・希望・勇気・ 努力と強い意志・規則等) ・コーチング(聴く力) ○ <u>聴き合う力(対話・比較・つな げる)</u> ・学ぶことや働くことの意義	・スポーツ技能の高め 方 ○体力の高め方 ・健康・安全への知識
未知の状況にも対応で きる思考力・判断力・ 表現力 人と関わる力 学びを活かす力 社会をつくる力	○課題設定力・課題発見力・ <u>課題解決力</u> ○情報収集力・情報整理分 析力 ○ <u>多面的・多角的思考</u> ・批判的思考 ・創造的思考 ・論理的思考	○コミュニケーション力 ・探究心 ○ <u>意思決定・自己調整力</u> ・自己管理能力 ・リーダーシップ ・フォロアーシップ	○自分の身を守る行動の 実践 ・正しい生活習慣の実 行 ○ <u>健康・安全を守る力</u>
学びを人生や社会に生 かそうとする 学びに向かう人間性	○学び続ける意欲 ・課題意識を持つ ○ <u>人との関わりの中での情 報収集しようとする意欲</u> ○学びを生活に生かす意 欲	○ <u>参画意識</u> ・他者との協働する態度 ・つながりを尊重する態度 ・人のために行動する態度 ○ <u>解決しようとする自主的・実践 的態度</u>	○ <u>自分の健康・安全は自分 で守るという意欲</u> ・スポーツに関わろうとす る意欲 ・体力を高めようとする意 欲

6. 今年度の重点と具体的な取組

(1) 教育活動全般を通じた主体的な児童の育成

◆教育課程全体を見通したカリキュラムマネジメントによる教育活動を充実させる。

- ① 学校行事や学習活動と関連させ、めあてと振り返りによる自己評価の充実と自己の生き方・在り方を考えるキャリア教育を推進する。(キャリアパスポートの活用)
- ② 児童会活動や特別活動の活性化を図る。(児童主体の学校行事・委員会活動・自治的活動の推進)
- ③ 学校行事・実行委員・児童集会等を児童自らが考え企画・運営することで達成感や充実感を与える。
- ④ 体験活動や人との出会い・体験の場を工夫し、探究的な活動を通して児童の視野を広げ、学んだことを活かす汎用的能力を育てる。
- ⑤ 異学年交流による協働・共生の意義・良さの実感をはかる。
- ⑥ 様々な交流体験を通してコミュニケーション力や聞き合う力・対話力・繋げる力等を育成する。
- ⑦ 話し合い活動を通じた主体的な意思決定や合意形成による活動を充実させる。
- ⑧ 指導力を持続的・継続的に高めるための研修の実施・校務分掌の組織的な連携(PDCA サイクルの機能化)

(2) 自律した学び手の育成～主体的・対話的で深い学びを目指し、児童に委ねる授業づくりを通して～

◆ねらい達成のための個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

- ① 児童自身が「授業は自分達で創る」という意識で、主体的に考え、学び合う授業を構築する。
- ② 教材研究の充実を図り、つきたい力を明確にした単元・授業をデザインし、しっかり身に付く授業づくり。
- ③ 教科横断的な学習として関連性を考え、学びの必然性のある問や課題を設定する。
- ④ 学習形態を判断・選択し、自己調整しながら学びを進めるための工夫をする。
- ⑤ つきたい力を明確にした、場に応じた見取りと確かな支援と評価を実施する。
- ⑥ 自分や多様な思いや考えを伝えたり理解したりする言語活用能力・対話力・表現力を育成する。
- ⑦ 多様な他者との対話を通し、考えの再構築ができるようにする。
- ⑧ ICT の効果的な活用として、授業の中での思考ツールとしての活用を推進する。
- ⑨ 振り返りにより自分の学びや課題を実感させ、次の学びに繋げる。
- ⑩ プログラミング教育の推進と充実としてプログラミング技術の活用を図る。

(3) 心身共に豊かでたくましい子の育成

◆生徒指導の実践上の4つの視点を活かした温かな集団作り

(自己存在感の感受・共感的人間関係の育成自己決定の場の提供・安全安心な風土の醸成)

- ① 道徳教育の充実による道徳的価値の向上と児童の言動の変容につながる心を育成する。
- ② 正しい生活習慣・学習規律を個別の目標設定により、意識化し実行する。
- ③ 活動の過程や成果を重視した指導と評価を工夫する。
- ④ 自分の健康・安全は自分で守るという意識化による感染予防やけが予防に努める。
- ⑤ 体力・運動能力の向上につながる目標設定と、実践を行う。
- ⑥ 学びを生活に活かそう学び続けるようとする意欲と、向上心を持った目標設定とチャレンジ意欲の育成を図る。
- ⑦ 健康的なメディアの利用ができるよう連携を図る。

7. 安心・安全な学校・学級づくり(組織的な学校運営)

(1) 安心して過ごせる学校づくり

- ① 生徒指導の実践上の4つの視点による学校、学級づくりを実践する。教職員全体で児童の様子を見取り、支援し、良さや成長を認め合い自己存在感や自己肯定感を高め、共感的な人間関係づくりを行う。
- ② 日頃からの情報収集や専門機関との連携により、いじめや不登校の未然防止に努める。
- ③ 訓練の工夫や職員研修により、教職員の危機管理意識を高め、事故や危機を防ぐ。
- ④ 日々の情報交換や業務の協働推進により、人材育成と業務改善を図る。
- ⑤ 教職員が積極的に声を掛け合い、明るく風通しの良い職員室づくりをする。
- ⑥ おたよりやHPを通して、学校の様子等の情報発信により開かれた学校づくりに努める。

(2) 家庭や地域との連携

- ① 育友会・家庭や地域等と連携し、協働していく。
- ② 児童が地域の良さを感じられるよう学習活動や教師の働きかけを工夫する。(総合的な学習の時間等)
- ③ 各家庭と連携し、健康に留意したメディアの利用を推進する。
- ④ 縦割り交流活動等の特色ある活動を継続し、保護者や地域に発信する。
- ⑤ 地域人材の活用や児童の地域活動への参加を進める。
- ⑥ 幼保小中の連携推進「願う子どもの姿＝板津人」の実現に努める。